九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Cardiothoracic Ratio and All-Cause Mortality and Cardiovascular Disease Events in Hemodialysis Patients: The Q-Cohort Study

四枝, 龍佑

https://hdl.handle.net/2324/2236108

出版情報：Kyushu University, 2018, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

（別紙様式２）

氏　　名	四枝　龍佑
論　文　名	Cardiothoracic Ratio and All-Cause Mortality and Cardiovascular Disease Events in Hemodialysis Patients: The Q-Cohort Study
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　江藤　正俊 副　査　　九州大学　　教授　　馬場園　明 副　査　　九州大学　　教授　　筒井　裕之

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

胸部レントゲン写真で測定される心胸郭比は、体液量の指標として広く用いられているが、これまで血液透析患者の臨床的な予後との関連について十分に検討されていなかった。申請者らは、本邦の血液透析患者の大規模前向きコホートである Q コホート研究の一環として、心胸郭比と総死亡および心血管疾患イベント発症との関連を検討した。4 年間の追跡期間中に、解析対象者 3436 人の内、564 人(16.4%)が死亡し、590 人(17.2%)が心血管疾患イベントを発症した。心胸郭比の分布に性差が見られたため、観察開始時の心胸郭比によって解析対象者を性特異的な四分位に群分けした。4 年間の総死亡および心血管疾患イベントの発症率は、心胸郭比が高値であるほど有意に悪化していた。心胸郭比が最小である群(第 1 四分位)と比較して、総死亡の多変量調整ハザード比は、第 2 四分位、第 3 四分位、第 4 四分位それぞれで順に 0.89 (95%信頼区間 0.66-1.20)、1.41 (1.08-1.86)、1.52 (1.17-2.00)であった。同様に、心血管疾患イベント発症の多変量調整ハザード比は、第 2 四分位、第 3 四分位、第 4 四分位それぞれで順に 1.00 (95%信頼区間 0.77-1.31)、1.18 (0.92-1.53)、1.37 (1.07-1.76)であった。結論として、血液透析患者において、心胸郭比高値は、総死亡および心血管疾患イベント発症の高リスクと関連していた。

本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについてもほぼ適切な解答を得た。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。